

# アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



## 種もみ消毒と催芽

農業経営支援課 山村



今年も苗の種子を準備する時期になりました。いもち病、ばか苗病などの種子伝染病は未然に防ぐことが大切です。毎年の慣れている作業だからこそ、手順をもう一度確認し、良い苗をつくりましょう。

### 資材消毒

病原菌の繁殖を防ぐため育苗箱等の資材は必ず消毒しましょう。ケミクロンGの1000倍液に10分間浸漬、又は500倍液に瞬間浸漬するかジヨロ口で散布した後、日光に十分に当て乾燥させます。

### 塩水選

種子を食塩水または硫酸水につけると、稔実が悪いもみは浮き、充実したもみは沈みます。素早くかき混ぜた後、浮いた籾やゴミを取り除きます。購入した種もみでも実施しましょう。塩水選後は必ず流水でよく洗ってください。

塩水選の濃度(水10ℓあたり)

種別	うるち	もち
比重	1.10	1.06
並塩	1.55kg	0.90kg
硫酸	1.98kg	1.10kg

### 種もみ消毒(田植え1ヶ月前)

薬剤の浸透効果を高めるため、目の粗い袋に7分目程詰めた後、**テクリードCフロアブル**(200倍)に**スミチオン乳剤**(1000倍)を加え、種子消毒を行います。種もみ1kg当たり2Lの薬液中で袋をよくゆすり24時間浸漬し、5〜24時間風乾させます。

### 浸種

水温は10〜15℃とし、**水温積算温度(水温×日数)**で1000〜1200℃(水温10℃で10〜12日間)を目安にします。酸素供給のため1〜2日おきに水を交換し、ときどき種もみを攪拌して水温や酸素吸収の均一化をしましょう。低水温での浸種は発芽にムラが生じます。

### 催芽

浸種が終わったら水を入れ替えて催芽します。水温は28〜30℃とし、15〜20時間加熱して八ト胸程度にします。